

日本・アジア学

Japan-Asian Studies Program
Academic Year 2015-2016

人類の進歩にとって
がんはどんな意味をもっているのか？

アジアで がんを生き延びる

正解のない問いである
人類の難問としての
「がん」という共有の試練を抱え
アジアがともに生き延びるために
いまどんな眼差しをもてばいいのか
戦後70年という節目に立ち
過去をみつめて 未来を紡ぐ
いまこそ学際知が試されている

夏学期講義日程

月曜日 5限 16:50～18:35

本郷キャンパス 福武ホールB2階・福武ラーニングシアター

4/27 東アジアの余白から見たがんというやまい

真鍋 祐子 [東京大学教授]

5/11 アジアのがんの現在をどのような視点でとらえるべきなのか？

赤座 英之 [東京大学特任教授]

5/18 地縁・血縁が乗り越えるアジアのがん

波平 恵美子 [お茶の水女子大学名誉教授]

5/25 日本人はアジアとどう向き合ってきたのか

永 六輔 [放送作家] × 吉見 俊哉 [東京大学教授]

6/15 アジアの高齢化社会はがんとう向き合うことができるのか
辻 哲夫 [東京大学特任教授]

6/22 日本・アジア・アメリカ 国際社会を生き延びる

藤崎 一郎 [上智大学特別招聘教授/前米国駐劔特命全権大使]

6/29 アジアのいのちをつなぐ食 がん予防とアジアのくらし

服部 幸應 [学校法人服部学園理事長]

7/6 日本はアジアとどう向き合っていけばいいのか

田原 総一郎 [ジャーナリスト]

7/13 アジアの中の日本、日本の科学はどこへ向かうのか

江崎 玲於奈 [日本学士会員/ノーベル物理学賞受賞者]



永 六輔



服部 幸應



田原 総一郎



江崎 玲於奈



藤崎 一郎

(敬称略)

がんというアジアの喫緊の共有課題を通して、高齢化、経済格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、などアジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする「Cross-boundary Cancer Studies」という学際連携プログラムに位置づけられている。

○冬学期に本授業と連動した授業を開講予定 ITASIA128 Surviving Cancer in Asia

連絡先

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府「総合癌研究国際戦略推進」寄附講座

担当:河原 TEL. 03-5452-5347 E-mail norie.kawahara@med.rcast.u-tokyo.ac.jp [大学院生以外の聴講参加可能]

アジア × がん

がんは文明病といわれる。人類は病と闘い生き延びる手立てを探してきたが、経済成長目覚しいアジアにおいては、皮肉にも、感染症の克服により手に入れた高齢化が最大のリスクとなりがんが急増している。グローバル化の波にさらされて経済格差が拡大しているなか、がんはアジアの人々の暮らしに深い影を落としはじめている。

「近くて遠い」と言われてきたアジアは、日本にとって内なる自己として自らを省みさせる存在であり、また絶対的な他者としても屹立してきた。

アジアとどう向き合っていくべきなのか、アジアの今の実像を浮かび上がらせるがんという重い課題を架橋としておいてみたとき、それはどんな意味をもつ問いなのか？

戦後70年という節目において、アクチュアルな知の課題を内包した問いを学際的に繋いでいく知が、アジアの未来を生き延びる智慧を紡いでくれるだろう。

- 時間割コード 31D220-1328S 31M220-1328S 4990180
- 授業時間 月曜日 5限 [16時50分▶18時35分]
- 場所..... 本郷キャンパス 情報学環・福武ホールB2階 福武ラーニングシアター
[4月27日のみ工学部2号館9階 93B教室]

アクセスマップ ▶▶▶



参考図書



Surviving Cancer in Asia:
Cross-boundary Cancer Studies,
The University of Tokyo, JJCO



アジアでがんを生き延びる
赤座 英之／河原 ノリエ 編
東京大学出版会 2013年4月刊